

# 自己評価表

愛媛県立八幡浜高等学校(全日制)

学校番号( 36 )

教育方針	1	校訓(五綱領:勉学 礼儀 健康 融和 奉仕)を基調として、国家社会の有為な形成者としての資質を養う。	重点目標	「校風造人」 - 誇りと自信を持ち、何事にも積極的にチャレンジする -		
	2	社会の変化に柔軟に対応し、自らの進路を切り開く確かな学力を育成する。		1	目指す学校像	○ 文武両道の進学校
	3	個性を尊重し、国際的視野を持った心豊かな人間を育成する。		2	目指す生徒像	○ 自己探求・自己理解に努め、自己の可能性を切り開く生徒 ○ 次世代のリーダーになり得る生徒 ○ 学校・家庭・地域の一員としての自らの役割と責任を自覚し、地域に貢献できる生徒
			3	教職員努力目標	○ 生徒の可能性の追求と適切な学習・進路・生徒指導の実践 ○ 教育公務員としての資質の向上と意識改革 ○ 生徒・保護者、地域社会から信頼される教職員	

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	・生徒や保護者、地域の期待に応える教育の推進	・多様な進路に応じた教育課程の編成	B	・保護者において、各学年にばらつきがあった。生徒にはまずまず理解が得られていた。	・概ね良好であると思われるが、保護者において学年で差があり、進路実現に向け、さらによりよい教育課程の編成を目指したい。
	・個々の教員の指導力向上	・生徒授業評価の実施	B	・授業評価及びアンケート結果より理解力が高まっており、アクティブラーニング及び学校訪問研修への取組が生徒の理解力を高めることに繋がった。	・結果にどうつながっているか、いろいろな角度及び短期・長期的な視野に立ち検討、意見交換を踏まえ高めていきたい。
	・生徒の自己実現への支援に向けた学習支援の充実	・チーム目標達成に向けた授業研究(教科会・相互授業参観・研究授業・研究協議)の活性化	B	・授業改善への使命感や責任感が向上した。授業実践の公開やその後の省察的対話も確実に増えた。教員相互の情報共有や相互支援に効果があった。	・相互参観授業及び研究協議の活性化に向けて、重点的に取り組む。
	・研修体制の充実	・一般公開授業における来校保護者数各回10人以上以上	A	・初回こそ多くの参観者があったものの、2回目以降は低調であった。	・PTA総会、文理選択説明会、学部学科説明会等、保護者の来校される行事と一緒に実施する。
	・生徒の自主学习活動のサポート及び環境整備	・生徒の自主学习活動のサポート及び環境整備	A	・環境も整い生徒達も有効に活用している。	・他の面でサポートできる面はないか、生徒及び教員間で情報や要望を共有する。
	・校内各種研修会の満足度100%	・校外研修会への参加者前年度比120%以上	A	・全2回(計3講座)の研修会において、全教員から「大いに満足」又は「満足」との評価を得た。	・「満足度、活用度、推奨度」の高い研修を目指し、教員のニーズに合ったテーマ・講師の選定をする。
				・校外研修への参加者は、前年度比120%を超えた。	・近隣校における一般公開授業への参加を促し、他校の授業における教授法の情報共有を図る。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	・基本的な生活習慣の確立	・みだしなみ再指導生徒数(各回5名以内)	C	・6回のみだしなみ指導で再指導者85名、1回平均14名の再指導者が出た。6回中1回のみ5名以内を達成した。	・長期休業明けの再指導者が多く、常に高校生らしいみだしなみを心掛けるよう指導を継続したい。
	・規範意識の向上と育成	・登下校時の危険箇所の把握と分析  ・交通マナーの徹底(交通事故0件)	B	・6月に自転車通行危険箇所のアンケートを実施し、9月に自転車通行危険箇所マップを作成した。11月の文化祭及び全校集会で保護者・全校生徒に配布し、安全意識向上を図った。 ・9月に交通安全ポスター優秀作品を決定しチラシを作成した。ポスターは校内掲示、チラシは交通茶屋で配布し、自転車マナー向上について啓発を行ったが、2学期末で10件の自転車事故が発生した。	・年度初めに、新入生対象に自転車通行危険箇所マップを配布し、交通ルールの遵守や自転車交通マナー向上に対する意識を高める。  ・余裕を持って登校する習慣を身に付けさせるとともに交差点での一時停止・徐行を徹底させる。
	・健康な心身と豊かな情操の育成を目指した特別活動の充実	・部活動の活性化(加入率90%以上)  ・ボランティア活動と地域活動への参加生徒(延べ600人以上)	A	・加入率は年度当初、98%であり、意欲的に活動ができています。  ・今年は愛媛国体も開催され、積極的に生徒がボランティアスタッフとして参加し、地域及び各種競技団体に貢献できた。	・勉強と部活動の両立を目指し、休み時間や放課後の時間の使い方に関する指導を継続する。  ・引き続き、ボランティア活動に関する啓発方法を工夫し、多くの生徒が意欲的に参加できる体制をつくる。
進路指導	・進路目標の実現	・効果的な補習、模擬試験の実施  ・適切に迅速な進路情報の提供と模試結果検討会及び進路検討会の充実	B	・学校の進路指導に関する取組に対する満足度が、より一層高いものでなければならない。	・生徒とホームルーム担任との個別面談の充実に繋がる進路情報を増やすとともに、ホームページや進路情報誌配布を通して保護者への情報発信を継続する。
	・進路指導体制の充実	・個別指導(教科、小論文及び面接)の充実  ・就職希望者への指導の充実	A	・教員の指導力向上に関する研修を積極的に行い、全教員体制で個別指導の充実を図ることができた。  ・就職希望者に対して内定率100%を実現できた。	・教員の校外での研修会及び外部業者主催の講演会への参加を積極的に行う。
	・望ましい職業観・勤労観と高い学問研究への意欲の養成	・「総合的な学習の時間」の充実  ・職場体験学習(インターンシップ)の充実	A	・商業科のインターンシップ実施期間の延長及び普通科の講習会が地域及び関係機関の方々の協力により実施でき、生徒の職業観・勤労観及び学問研究への意欲を高めた。	・これまでと同様に地域及び関係機関の方々の協力を得ながら積極的に実施する。
健康・環境	・心身共に健康な身体づくりを行うための自己管理能力の育成	・健康診断と事後指導の徹底  ・自己の健康状態の的確な把握	B	・呼び出し指導で2次健診を促したが、未受診の生徒もいるので継続した指導を行う。  ・毎月の「保健だより」の発行、学校行事前の指導、感染症予防の呼び掛けにより、健康・安全管理に努め成果を上げた。	・事後指導を徹底し、速やかに2次健診を終え、継続した治療となるように努める。  ・自己管理能力を高め、規則正しい生活習慣の確立を図る。
	・教育相談体制の充実	・教員のカウンセリング能力の向上  ・特別支援教育の充実	B	・関係者での情報共有を図り、啓発に努めた。  ・情報の共有を図り、関係機関と連携して特別支援教育を推進した。	・関係機関との連携を図る。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
健康・環境	・教員の事務負担の軽減	・校務処理の効率化・見直し	C	・出退勤記録の記入を行うことにより、時間外勤務時間を把握し、自身の心身の状況把握に努めた。	・「早く帰ろうDay」の実践
	・防災意識の向上と安全管理	・防災訓練の実施(各学期1回) ・校内安全点検の実施(毎月1回)	A	・毎月行う安全点検と事後処理、様々な想定の下での年4回の防災避難訓練により安全意識の向上を図ることができた。	・防災避難訓練の在り方を工夫して、一層の防災意識の向上に努める。
健康・環境	・校内外の環境美化	・積極的な清掃への取組 ・地域清掃奉仕活動への積極的な参加 ・ゴミの減量化 ・節電と節水を中心とした省エネの推進	A	・環境委員と保健委員によるトイレの点検などにより環境整備を図った。 ・新川クリーン作戦では積極的に活動し、地域に貢献することができた。 ・生徒、教職員に節電を呼び掛け、成果を上げた。	・校内美化、ゴミ分別の徹底を引き続き呼び掛ける。 ・次年度も新川クリーン作戦を実施して地域に貢献する。 ・引き続き節電への協力を全校に呼び掛ける。
	・図書室の活性化	・読書習慣の定着 ・委員会活動の充実 ・学習の場としての図書室の整備	B	・貸出冊数4月～12月の昨年度比は、ほぼ同数であった。朝読書への取組は良く、読書習慣は身に付いてきたと言える。 ・委員の仕事の役割分担を周期的に変えるシステムにし、全員、一通りの活動ができるようになっている。 ・机のレイアウトを変え、授業時、アクティブ・ラーニングに利用してもらえた。放課後は3年生の利用が多く、学習する雰囲気が出てきている。	・読書状況の公開、読書イベントの開催等、広報活動を拡充していきたい。 ・現在のシステムを定着させ、さらに委員の主体的な活動を尊重していきたい。
図書・情報	・情報発信の充実とセキュリティの確保	・ホームページの適切な更新 1日当たり1000件以上のアクセス数 ・管理規程の遵守と改善 セキュリティポリシーの見直し	C	・随時更新することができた。 ・1日平均アクセス数は約800件である。 ・windows updateなどセキュリティ対策を確実に行った。愛媛県立学校情報セキュリティポリシーが策定されることとなり、本校独自の見直しはできなかった。	・教員に、ホームルーム活動や総合的な学習の時間、授業での図書室利用について、呼び掛けていきたい。 ・各課と連携し、更に迅速な更新に努める。 ・1000件を超えるように内容を工夫・充実させる。
	・保護者への情報提供	・「PTA月報」の発行(月間1回) 各研修会の広報 ・「PTA会報」の発行(年間3回) 生徒の活動の紹介	A	・「PTA月報」及び「PTA会報」共に、保護者や先生方の協力で計画どおりに発行することができた。	・来年度も同様に、保護者や先生方に読んでいただける「PTA月報」及び「PTA会報」としたい。
人権・同和教育	・差別を見抜く力、差別を許さない感性、差別をなくしていく行動力の育成	・人権・同和教育ホームルーム活動の充実と活動計画の見直し(年間3回)	B	・各ホームルーム担任の先生方の熱心な取組により、充実したホームルーム活動が行われた。 ・「会報」の資料を基に、系統的な学習ができるよう活動計画を見直した。	・さらに系統的な学習ができるように、教材の精選を行う。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
人権・同和教育	・人権委員会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人権だより」の発行(年間8回) <u>生徒の活動の報告</u></li> <li>・<u>中学校と連携した人権委員会夏期研修会を実施</u></li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークを実施したことにより、「人権だより」や、全校集会において充実した報告ができた。</li> <li>・参加者が積極的に意見交換できるよう講座を企画することで、活発に活動できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度もフィールドワークなどの実践を企画し、生徒とともに積極的に活動したい。</li> </ul>
	・人権・同和教育研修会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内人権・同和教育研修会の実施</li> <li>・「人権・同和教育課だより」の発行(年間5回)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会や「人権・同和教育課だより」を通じて、教職員の人権意識を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する人権問題に対して、随時適切な情報を提供する。</li> <li>・特に「部落差別解消推進法」の具現化に向けて、情報を提供する。</li> </ul>
事務	・迅速で適切な事務処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>事案に対応できる人材の育成</u></li> <li>・経費節減と予算の有効活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担当分野において、条例の改正等に対応し適切に事務処理を行った。</li> <li>・不要不急な支出を控え、適正な予算執行に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条例改正や制度変更等の情報を他校と情報交換し、対応していきたい。</li> <li>・消耗品等年間使用量を把握し、計画的な支出に心掛ける。</li> </ul>
	・教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>安全管理と早期対応</u></li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健環境課と連携し、修繕箇所の早期発見、修理ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、保健環境課と連携していきたい。</li> </ul>
学年	1学年 ・ <u>何事に対しても主体性を持って行動できる生徒の育成</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>皆勤率70%以上</u></li> <li>・<u>文武両道の実現～家庭学習時間の確保</u></li> <li>・<u>自己理解を深める進路指導の充実</u></li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣が確立できている生徒も多く、学校生活を楽しんでいる様子が見受けられる。</li> <li>・部活動に熱心に取り組む生徒も多く、家庭学習時間の確保については二極化しており課題が残るが、学習に対する意欲の向上は感じられる。</li> <li>・総合的な学習の時間や講演会等を通して、進路意識の高揚を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を確立する中で、文武両道を実現することを意識させ、毎日の生活をどうデザインすればよいかについての考えと実践を深化させたい。</li> <li>・生徒には文武両道の強い自覚を持たせつつ、課題の出し方と効果について研究を深め、生徒の自主性を育むことのできる学習指導の在り方を探りたい。</li> <li>・類型選択により今後自らが進むべき道を構築しやすい状況となるが、進路と生徒各自の意識をマッチングさせ効果的な進路指導の充実を図りたい。</li> </ul>
	2学年 ・ <u>YAWATAHAMA PRIDE</u> ・ <u>—誇りを胸に、夢に向かって前進する—</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標の明確化と個々の課題の追究</li> <li>・家庭学習の充実と気力の持続</li> <li>・<u>凡事徹底</u></li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現のための個々の課題研究等、学習面において積極的に取り組み、一定の成果が得られた。</li> <li>・家庭学習時間の確保や学校行事やボランティア活動など課外活動への積極的な参加が望まれる。</li> <li>・小テストや日々の学習に対して、気を抜くことなく少しずつ積み重ねることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けて、個々の生徒の実情を把握し、一人一人が自覚を持って目標に向かって取り組むことができるように指導していく。</li> <li>・勉強だけではなく課外活動など様々な活動を粘り強く継続することにより、豊かな人間形成を目指していく。</li> <li>・今後もたゆまぬ努力を重ね、小さな成果の積み重ねによって大きな成果を掴めるよう指導する。</li> </ul>
	3学年 ・ <u>最高学年としての自覚と自己実現の達成</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学、就職100%</li> <li>・生徒の適性を踏まえた進路実現</li> <li>・<u>行事や部活動で学校を牽引できるリーダー性の育成</u></li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・進学共に100%を達成した。</li> <li>・担任を中心に各教科との連携も図れ、生徒の適性を踏まえた確実な受験プランを提示できた。</li> <li>・部活動や体育祭で、下級生を牽引する場面が随所に見られ成長の様子が感じられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定の成果は上がった。今後も、更なる指導体制の強化を図りたい。</li> <li>・今後も、進学や就職指導のスキルの共有化を図り、幅広い視野を持った進路指導を行いたい。</li> <li>・学習だけでは得られない、社会へ出てからの人間性の育成を学校全体の取組として行いたい。</li> </ul>